◆ シリーズ「主体的で対話的な性教育授業」⑦ ◆

# 起こり得る場面から考え、対話を通して深く学ぶ「性の多様性」の特別活動（岡山県立玉島高等学校２年）

教育ジャーナリスト 矢ノ浦 勝之

**今回は、岡山県立玉島高等学校の梶谷さとこ養護教諭が、全国性教育研究団体連絡協議会会長の野津有司先生（筑波大学名誉教授）らが開発したケーススタディ手法の教材をもとに生徒の実態に合わせて行った、高校２年生の特別活動「性の多様性の受容とコミュニケーションを考える」の授業を紹介する。この授業では生徒たちが、相談された内容の対応方法をじっくり考え、対話を通し深く学ぶ姿が見られた。**

## 自らの性に違和感を持つ人に相談されたら？

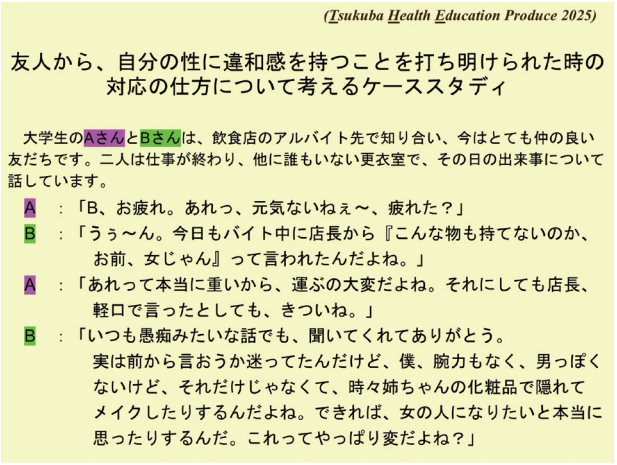
当該クラスにおいて授業を行うのはこれが初めての梶谷養護教諭は、授業冒頭の簡単な自己紹介から始めた。そして、ケーススタディのスライド(右画像)を見せながら生徒たちに次のように説明した。

「今日の登場人物は大学生のAさんとBさん。みなさんより少し年上です」

そして、梶谷養護教諭はAさんとBさんの対話を読み上げていく。バイト仲間であるBさんがAさんに悩み相談をもちかけ、重いものを持てないことで店長に「お前、女じゃん」とからかわれたことや、本当に女の人になりたいと思ったりすることがあるとAさんに相談するストーリーだ。

「今、読んだのは、架空の話なんだけれども真剣に考えてくださいね」とワークシートを配付する梶谷養護教諭。ワークシート１に、相談されたAさんはBさんに対し、どんなふうに何と言うか、態度や表情、言葉を想像して書くように指示する。ここでは周囲と相談せず、４分で書くようにと付け加える。生徒たちが黙々とペンを走らせる静かな教室の中に、「難しい」という小さな呟きが聞こえてくる。

途中、「“あなただったら”じゃないんだよ。このAさんがBさんにどう言うかだよ」と改めて注意ポイントを伝える梶谷養護教諭。書き終えた生徒、悩んでいる生徒の間で相談する声が少しずつ聞こえ始め、やがてプロジェクター画面に表示されたタイマーが４分の終了を示す。梶谷養護教諭は、全体がほぼ書けていることを確認した上で、ワークシート１を裏返すように指示し、続いてワークシート２を配る。


(Tsukuba Health Education Produce 2025)

友人から、自分の性に違和感を持つことを打ち明けられた時の対応の仕方について考えるケーススタディ

大学生のAさんとBさんは、飲食店のアルバイト先で知り合い、今はとても仲の良い友だちです。二人は仕事が終わり、他に誰もいない更衣室で、その日の出来事について話しています。

A ：「B、お疲れ。あれっ、元気ないねぇ～、疲れた？」
B ：「うぅ～ん。今日もバイト中に店長から『こんな物も持てないのか、お前、女じゃん』って言われたんだよね。」
A ：「あれって本当に重いから、運ぶの大変だよね。それにしても店長、軽口で言ったとしても、きついね。」
B ：「いつも愚痴みたいな話でも、聞いてくれてありがとう。実は前から言おうか迷ってたんだけど、僕、腕力もなく、男っぽくないけど、それだけじゃなくて、時々姉ちゃんの化粧品で隠れてメイクしたりするんだよね。できれば、女の人になりたいと本当に思ったりするんだ。これってやっぱり変だよね？」

ケーススタディのＡさんとＢさんの対話スライド
（筑波技術大学学生の與儀元気さんの提案から作成）

「悩みを打ち明けたBさんに対するAさんの対応として、①～⑫の12項目が用意されています。これらの12項目について、望ましくないと思うものは信号機の赤色に、どちらとも言えないと思うものは黄色に、望ましいと思える対応は青色に分ける活動に取り組んでもらいます。これから先生が12項目を読み上げるので、まずは自分で『赤だろう』『黄色だろう』『青だろう』と決めてください。考え込むんじゃなくて、決めてワークシートの赤、青、黄色の欄に丸印を付けてください」

そう説明し、「①大事なことを打ち明けてくれたこ

とがうれしいと言う。②驚いた表情をする。③話を丁寧に聞く。……」と12項目を読み上げていく梶谷養護教諭。全員が12項目に対する判断をし、書き終えたところで、４人グループになったテーブルそれぞれに12項目のカードと信号機の絵が描かれたシートを配付。次はグループ活動に入ると伝える。

グループで対話しながら12項目それぞれに対する赤、黄、青を相談して決め、その結果をICT で送信するよう指示する。話し合いの時間は13分。そして改めて、「多数決じゃないんだよ」と、しっかり対話するように声をかけた。

## 互いの判断の違いをきっかけに対話が深まる

生徒どうしで決めた仲良しグループだけあり、対話に入ると一気に活発な声が響く。

「⑦の『バイト先の店長にBさんに対する言動について気を付けるように……』は？」

「『お前も（店長と）グルなのか』と思われたりするから、⑦は赤」「だって、バイト先の店長に『お前、女みたいだな』と言われている時点で、それを打ち明けたらもっと言われるから、言わないほうがいいよね」と、この項目⑦ではグループ４人の意見が一致する。

別の項目では、意見が分かれたことに驚きつつ、真剣に対話していく場面もある。

「⑧の『性的マイノリティに関してよく調べて、正しい知識を身に付ける』は？」

「黄色」「オレも黄色だ」「えっ、青」「青なんですけど」と意見が２つに割れる。

「やってもいいけど、やらなくてもいいという感じが強かった」と黄色派の生徒。「調べたら、より理解できて話を聞いてあげることができるかなって思う」「Aさんしか、Bさんの話を聞いてあげられる人がいないかなって思うから、それならしっかり理解して、聞いてあげられるようになるほうがいいかなって……」という青派の意見に、「じゃあ、青だね」と頷いて青に賛同する黄色派の生徒たち。

さらに、意見が３つに分かれる場面もあった。

「じゃあ⑫の『……他に相談していい人や内容の範囲について、Bさんに確認する』は？」「赤」「オレ青」「黄色です」と３つに分かれた。

「許可を取るってことは『他の人に話したいと思っている』と思われて、『この人には相談しづらいかも』って思われたりもするから」と赤の意見。「まわりの人に聞いてくれるのは嬉しいけど、それでＢさんだってバレて、店長みたいな人が出てくると問題だから黄色かな」という意見に「それを言われたら黄色に近くなるな」と他の生徒たち。さらに対話が続いていく。



グループで対話し、信号機のシートに項目①～⑫のカードを置いていく

全員の意見が一致する項目もある一方で、友達との考えにズレがあることに驚きつつ、対話を通してグループ内での納得解を求める姿勢が印象的だった。

13分間の対話とグループ内の意見整理の後、梶谷養護教諭は、意見対立を対話で解決した複数のグループから、どのような話し合いがされたかを聞いていく。

【⑪ 心配し過ぎだと優しく言う】

「黄色と青で対立しました。黄色の意見は、否定的にも肯定的にも取れるから黄色だと考え、青は『心配し過ぎだよ』と安心させることは大切だということで青だと考えました」と発表する１つのグループ。

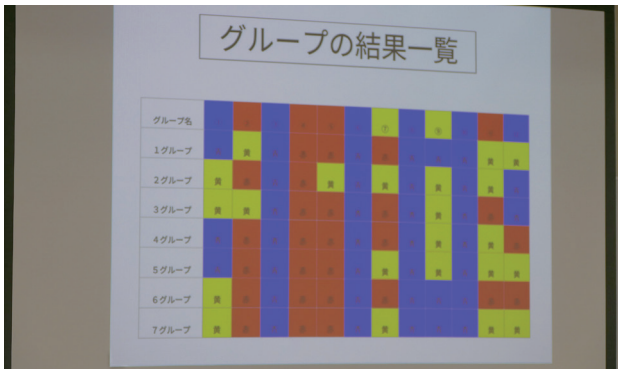
【② 驚いた表情をする】

「黄色と赤に分かれて……。驚いた表情でも意味が違うし、共感するような驚き方か引くような驚き方かで意味が変わってくる……ということでは黄色かもしれないけど、どっちにしても驚かれたらBさんが傷つくということで赤にしました」というグループ。別のグループからは「Aさんが男性か女性かで変わるなと思いました」という意見が出てきた。

## 互いの判断のズレを知り、重要なポイントを学ぶ

ここで、梶谷養護教諭はプロジェクターに、ICTで集計した全グループの赤青黄の判断に加え、問題を作成した野津名誉教授の回答例も加えた表を示し、次のように説明する。

「これはみんなが考えてくれた結果の一覧です。絶



各グループの赤青黄を集計した一覧表。最上段が教材開発者の回答例

対的な正解、不正解はないので安心してください。

自分のグループと他の所の結果を見比べてみましょう。一番上に、この教材を提供してくれた先生の回答が出ています。さっきワークシートに記入した自分の考えやグループの結果と違っていたら、別の色のペンなどで書き加えてほしいです。望ましくない対応、つまり赤信号が②、④、⑤、⑪。どちらとも言えない対応、つまり黄色が⑦と⑨。望ましい対応である青信号が①、③、⑥、⑧、⑩、⑫となっています。

先ほども言いましたが、今回のケースではこの色ですが、実は条件によっては黄色が赤になることもあります。さっき皆が説明してくれたように、『こういうことだから黄色じゃないか』『こういうことだと赤じゃないか』と変わってくることがあるので、回答例が絶対とは言えない部分もあります。

意見が分かれたところでいうと、⑫の回答例は青なんだけど、私が聞いていた感じだと『この人はいろいろ聞かれたくないのではないかな』と慮ってあげて黄色にしたグループもありました。みなさんがいろいろ考えてくれたように、これは同意を取ることが大切なんですね。」そう話し、「カミングアウトやアウティングという言葉を知っていますか？」と続けて投げかける梶谷養護教諭。これらについてプロジェクターで資料を示し、説明をしていく。

「カミングアウトとは主に性的マイノリティが自らの性のあり方を自覚し、他者に開示することを言います。カミングアウトする・しないは本人の自由と言われています。それとは違い、アウティングは、本人の性のあり方を本人の同意を得ることなく第三者に暴露することを言います。アウティングは人権侵害になります。絶対にしてはいけないことと覚えておいてほしいです。」

そう話し、さらに資料を配付。留意点や禁句等について詳しく説明をしていく。

「相談を受けたときの基本的な留意点としては、『LGBTQなどの決めつけをしない』『困っていることや望んでいることに最も耳を傾ける』『否定は絶対にしない』『自分が持つ常識や普通を言わない、押し付けない』『相談事について他に話していい人、範囲について確認し、その約束を必ず守る』。また、相談を受けたときの一般的な禁句の例として、『心配し過ぎじゃないの』とか『普通じゃないね』とか『諦めるしかないよ』とか『それはわがままだよ』という言葉は言わない、といったことが資料に書かれています。」

## 自分事として考え、教師の説明に聞き入る生徒

さらに梶谷養護教諭は、「これらの留意点と禁句の例を踏まえ、次の個人活動に移ります」と、生徒たちに次のように投げかけた。

「授業のはじめに各自で考えた、Bさんに対してAさんが何をどう言うのかについて、ワークシート１に書いたことを自分で見直してください。良くないと思う内容や表現を削除・修正し、より良い内容になるよう書き加えてください。」

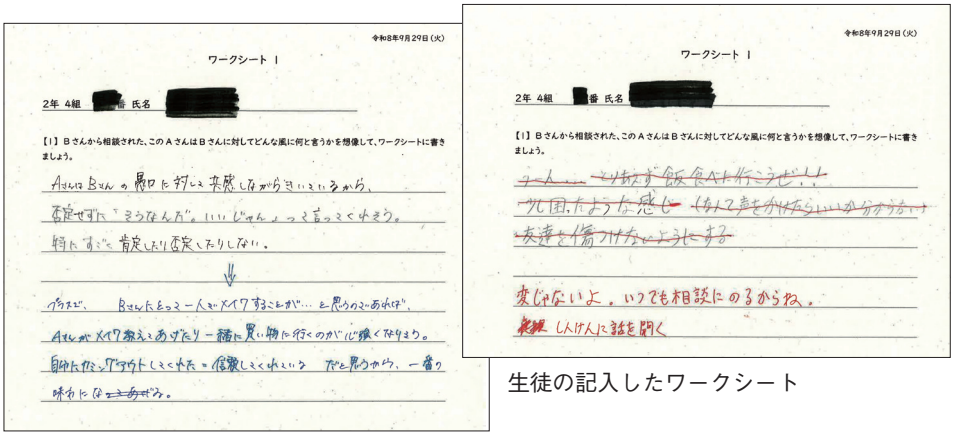
そう話し、最初の鉛筆とは異なる色のペンで削除、修正や加筆を行うよう指示する梶谷養護教諭。さらに梶谷養護教諭は言葉を添える。「実はこの活動が、今日の授業の最も大切なところです。」

示された５分の間、教室に話し声はなく、生徒たちは赤や青のペンで、授業はじめの個人活動で書いたAさんの対応に対する修正を書き込んでいる。そして、時間が来たところで複数名を指名する。

「最初は、『いや、やめとけって。お前が本気なら応援するよ』と書いて、今、『いや、やめとけって』を消しました」「最初は、『オレは全然変じゃないと思うよ（苦笑い）。あまりにも……』と書いていたのですが、今は（苦笑い）を（真顔）に変えて、さらに『他に困っていることはない？　よかったら話聞こうか？』を足しました」等と生徒が発表。

他にも、「そんなことないんじゃない？」という疑問形を「そんなことない。変じゃないよ」と言い切りに変えた生徒や、長文で細かな配慮を加えた意見もあった（次頁画像）。

さらに、梶谷養護教諭は次のように投げかける。



生徒の記入したワークシート

「今日は、大学生のAさんとBさんの架空の事例で考えてもらいましたが、あなたたち自身が友人から相談を持ち掛けられるかもしれません。今日の授業で学んだことは、これで終わりとしないで、将来に向けて、あなたたちだったら友達とどんなコミュニケーションを取っていくのか、悩んでいる友達にどう寄り添ってあげられるのか、これからもしっかり考えていく必要があります。」

コミュニケーションは態度が重要だと簡単に説明した後、授業の振り返りを書くように指示。残り６分弱、しっかり書き込む時間を取って授業を終えた。

授業後に回収された生徒の意見の中には、「『心配し過ぎだよ』という言葉は、相手の気持ちを軽くすることができるのではなく、禁句ワードだということを知りました」等の学んだ内容に関するもののほかに、「赤、黄、青に分ける活動が最も印象に残りました。４人という少ないグループなのにもかかわらず、意見が複数に分かれたりしたからです」など、よく知っていると思っていた友達にも多様な考え方があることに驚いたものもあった。

授業全体を通してみて、この授業は、生徒がしっかりと考えて書き込む活動が複数用意されている一方で、活動の説明にたっぷりと時間をとる場面も見られた。例えば、グループ活動における判断の整理・分析に関する説明、個人活動の自己添削の説明などだ。

最後の活動の説明においては５分にも及んだ。しかし生徒たちは誰一人口を開く者はなく、ある生徒は頷き、またある生徒はメモを取りながら聞き入っていた。これはケーススタディのAさんの対応を自分事として捉えて考え、悩み、対話してきた後だけに、説明を聞き取って理解しようとしていたからだろう。

目下改訂作業が進められている次期学習指導要領では、「深い学び」を行うためには「less is more」、つまり本質に関わる少量の内容をじっくり考えることが大切であるという考え方が重視されている。中央教育審議会の改訂議論の過程では「教えることも必要なこと」と再確認される場面もあったが、学び手が対象となる内容に対して主体的に向き合う姿勢がなければ、その理解、定着にはつながらない。逆に、学び手が自分事として考える姿勢が築かれていれば、多量な情報も生徒自身が整理し、統合していく。

今回の授業でも、本質に関わる事例を自分事として考え、対話を通して主体的に深い学びに向かう態度が形成されたことで、教師の長尺の説明も真剣に聞き取り、受け止め、理解しようとする姿勢が生まれたように見えた。次期学習指導要領が目指す授業のあり方の好事例と感じられた。

### ◆ 授業者インタビュー ◆
### 「性教育とは生きる教育（生教育）」


野津有司氏

今回の授業を作成提案した野津名誉教授は、授業構成の意図について次のように説明する。

「まずは、生徒たちに今回（AさんとBさん）のような相談を受けることや、そういう方々と接触する可能性があるということに気付いてほしいのです。そのときに、どのように対応することが望ましいのか、どういうことは避けるべきなのか、少なくとも知識として理解してほしい。その上で、実際に対応するとなるとなかなか難しいということに気付いて、前向きに取り組んでいければ十分です。

ワークシートには色違いの文字で、そうした生徒の思考過程や変容が示されています。これは、思考の深まりという意味でも成功だったと言えるでしょう。

その際、ただ子どもの考えが深まったから良いというのではなく、（集計された赤青黄の一覧表で）指導者が考える回答も示されることは、学びという点で大切です。今回のような主体的で対話的な性教育授業

を、養護教諭だけでなく保健体育の教諭にも行ってほしいと思っています。」


梶谷さとこ養護教諭

梶谷養護教諭はこの日の授業を次のように振り返る。

「私は性教育は生きる教育、『生教育』だと思っています。具体例の場面を通して、生徒たちにあり得る状況を考えさせたいと思い、今回、野津先生の教材を使わせていただきました。

生徒たちが最初に書いた自分の考えに対し、青や赤のペンで修正したところには『あっ、これはこうだったか』という彼らなりの気付きと深まりがあったと思います。それは、問いの数を絞って、その問いに自分なりにじっくりと考えることができたからでしょう。実際に、①～⑫の項目で赤青黄の意見が分かれたとき、生徒たちが真剣に対話し、対立意見に対して『これはそうじゃないだろう』と激論を交わす姿も見られました。加えて、同じ赤、同じ黄色でも理由が違うという場面もありました。それはまさに教師の期待通りの反応でした。

振り返りにも『考え方の違いを知ることができてよかった』といった意見が複数ありました。同じ題材を通して、同じ内容を見ても違いが生じることに気付いたことにこそ、対話の必要性、価値があるのだと思います。それは具体的な場面を想定しやすく、なおかつ意見の分かれ得る、この教材の力と言えるでしょう。

今回、本校の生徒に合わせて教材をマイナーチェンジするため、野津先生と10時間以上打ち合わせをして、『これを入れよう』と試作し『やはりこうか』と削ることを繰り返しました。生徒の実態に合わせてこの分量に絞ったからこそ、結果的に彼らなりに思考が深まったのではないかと思います。」

最後に野津名誉教授は次のように話した。

「性教育はとかく暗くなったり、しんみりし過ぎてしまったりすることがあります。むしろ、性というのは子どもたちにとって夢と希望があるもので、授業を受けることによって、それがさらに膨らむことを目指すことが必要です。今日の授業は、展開も明るく進みましたし、その中で生徒たちには『考えた』という満足感のある顔が多数見られました。今日求められる、すぐれた授業のひとつが創出できたと思います。」

矢ノ浦勝之（やのうら・かつゆき）
1000以上の小・中学校の教育実践のレポートを教育系雑誌・書籍にて執筆。学習指導要領の改訂につても多数取材している。著書に『秋田県式 学年別国語・算数・理科「自ら学ぶ」子を育てる授業づくり』『「カリキュラム・マネジメント」の進め方』（小学館）ほか多数。

主催・全国性教育研究団体連絡協議会
協賛・日本性教育協会
参加者募集
性に関する教材と指導法セミナー
日本の学校教育の特長や子供たちの実態を踏まえた上で、諸外国の性教育から何をどう学ぶか、また教材や指導方法をどう工夫するかを実践的に探ります。
内容：
①「諸外国の性教育事情と日本型の包括的性教育」
②「教材の見直し及び指導方法の工夫（ケーススタディ等）」
③「性の多様性、境界線等の課題の捉え方、自己肯定感の育成」
※終了後には、希望される方の個別の相談・質問を受け付けます。
令和8年
11月23日
参加型
1日コース
講師：野津 有司
全国性教育研究団体連絡協議会
理事長・筑波大学名誉教授

会場：日本出版クラブ4階403室
東京都千代田区神田神保町1-32
神保町駅（東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄・新宿線三田線） A５出口より徒歩２分
受講料：3000円
※事前に「インターネット申込」と受講料の「口座振込」が必要です。
申込方法：
「申込みサイト」より、事前にインターネットにてお申込みください。
https://forms.gle/thgRUidjFUkPxjup7
※電話，FAXでの申込みは承りません。
申込締切：令和８年11月20日（金）
※定員になり次第、終了します。
問合せ先：全国性教育研究団体連絡協議会（全性連）事務局
E-mail：
zenseiren@galaxy.ocn.ne.jp